

富士山！万歳！！

8月5日（月） ～ 8月8日（木）

IN 静岡県立富士山麓山の村～赤岩八合館

	午前	午後	夜
1日目	施設向け出発	施設に到着	作戦会議
2日目	荷造り・出発	富士登山	山荘到着・ハガキ書き
3日目	山頂出発・下山開始	施設到着・片付け	振り返り
4日目	施設清掃・プール	関西向け出発・解散	

一日目：今年の富士山は天候に恵まれ、期間中、富士宮市及び、富士山の天候は良好です。登頂の鍵はメンバーのコンディション次第なので、登山に向け高め合っていたきたいです。各集合場所から集まり、富士宮市に向かいました。道中序盤は静かでしたが、徐々に会話が増え、拡がり、昼前には賑やかになっていました。昼食後は再び静かな雰囲気になりそうでしたが、それを打破しようとする意思が伺えました。夕方に無事施設に到着すると、すぐに夕食の準備に入りました。いつも以上に沢山食べて、翌日に備えました。夕食後は登山に向けて作戦会議です。富士山の特徴や状況、注意しなければいけない点など、皆が知っていることや経験者からの意見を沢山話し合いました。初めて挑戦される方は、その情報をもとに準備や心掛けをしていきます。明日が本番です。楽しさと不安、緊張など、様々な想いが垣間見られましたが、全員やる気は十分です！頑張っていきましょう。



二日目：朝から少し雰囲気の違う様子を伺えました。朝食を済ませ、富士山への準備を始めました。何が必要なのか昨晚から選んでおられても「本当にいるのかなあ？」と疑問が尽きない様子でした。なんとか荷造りを終え、リーダーがチェックし、足りないものがあると「あーっ！」と部屋に取りに帰っておられました。施設を出発し、【富士宮口五合目】に到着しました。五合目で既に2,400mあるので、空気の薄さに慣れるために、昼食を含めてしばらくここで過ごしました。荷物や靴紐チェック、リュックの具合などを確認し、ついに富士登山が始まりました。富士山にはいくつか難所があります。一つ目が『宝永山』です。全体が火山灰で覆われている為、踏み込んでみずり落ちてしまい、なかなか登ることが出来ません。二つ目が御殿場ルート of 永遠と続く『蛇腹折りの道のり』です。ゴールの山荘は見えているのですが、いくら折り返してもなかなかたどり着く事が出来ず、体力も尽きてくるタイミングも相成り心が折られます。こうした難所を乗り越え無事に宿場“赤岩八合館”に到着することが出来ました。例年に比べ、早い時間で着く事が出来たのでとても感心しました。荷物の整理をし、夕食をいただきました。夕食後は、昨夜書いたハガキの裏側を書きました。今の心境、意気込みを書いておられました。書き終わると早々に就寝しました。

三日目： ご来光に向けて、起床は1時でした。熟睡されているところに声を掛け起こすと、寝ぼけていてもすぐに意識を切り替え、準備を始めました。昨夜、寝る前に荷物の準備をしていたので、スムーズに完了しました。出発は1時50分です。眠そうな方もおられましたが、意気込みは十分で、全員から【登頂】の想いを感じる事が出来ました。途中、吐き気など体調不良がありましたが、本人の意思と体調不良の具合が軽度ということのを考慮し、全員で臨み続けました。何度か休憩を挟みましたが、予想以上の好ペースで、頂上には予定より早く3時50分に到着することが出来ました。そして、待ちに待ったご来光の時です！皆言葉を失い、ずっと太陽の輝きを見つめておられました。同時に満たされた表情を伺えました。ご来光を見た後、最高峰の剣ヶ峰へ向かいました。体力や気持ちに限界が来ているメンバーもおられたので、登頂には希望者のみで向かいました。行かなかったメンバーの中には、後々後悔されている方もおられました。再び山荘に戻り、朝食をいただいた後、荷物をまとめて下山をしました。下山は比較的楽で、登りの蛇腹折りはなく一本の坂道『大砂走』を下るだけなので、楽しくお話をしたり、場所によっては走り下ったりもしました。スタートの五合目には13時に帰ってくる事が出来ました。施設へ戻る車内では疲労困憊のようで、皆眠っておられました。施設に戻ると、荷物の片付けや備品の返却をしました。夕食後は振り返りを行いました。各自から富士山の感想とまた登りたいかを聞きました。どの内容もしっかりと想いが込められており、何を学んだかを確認しました。



四日目： 登山の疲れもあり、こちらが起こすまでぐっすりとおられました。起床後は、片付けや掃除と忙しかったですが、手分けをして、テキパキ済まされました。朝食を済ませ、施設を出発しました。車内では、やはり疲れが抜けていないようで、すぐに休まれる様子が伺えました。しかし、市民プールに到着すると、先ほどまでの疲れがどこかにいったかのように元気よく向かわれました。プールでの様子は、皆終始笑顔で、楽しそうにされていました。プールを終え、関西へ向かいました。途中のサービスエリアにて昼食を済ませ、お土産を購入しました。待たれている方へ、頑張った自身へ、真剣な表情で選んでいました。関西に戻り、各地で解散をする度に、仲間との別れを寂しそうに惜しまれる姿が見られました。



<キャンプ総括>

今年は途中誰もリタイアすることなく、無事に全員、登頂することが出来ました。天候にも恵まれ、今回の登山は文句なしの形で終わることが出来たと思います。こうした機会に私は参加していただいた皆様から心から感謝していると同時に、メンバーにもあらゆる事に感謝をしていただきたいと思います。三日目の振り返り時に皆に「感謝の気持ちを持って欲しい」と伝えました。ご自身の力のみで登ったわけではなく、多くの方が関わり、助け、支えてもらって今回の結果を出すことが出来た事をしっかりと胸に刻んでいただきたいと思います。沢山の『お陰様』があることを忘れず、ご自身もその一人であることを自負していただきたいと思います。本当にお疲れさまでした。機会がありましたら、次回も是非ともチャレンジしましょう。 (竹中 哲郎)